

LW7, 10 & 15 保護管部品 (2001)

この部品は温度センサ素子、検出器、調節器およびサーモスタットの保護用で、配管や水槽容器に取り付けて使用します。また各アクセサリ部品の仕様は各保護管サイズに合わせて利用します。

保護管は公称圧力(PN)の1.5倍で試験しております。

LW 7 形 保護管：ID Ø 7 mm、OD Ø 9 mm

保護管	材質	取付ねじ	PN bar	T _{max} °C	L /120.../225	L /300.../600
226807 ...*	黄銅	R ½	16	200		
226809 ...*	ステンレス鋼	R ½	16	200		
226811 ...*	ステンレス鋼	G ½A	25	325		

... = 長さ L = 120, 150, 225, 300, 450, 600 mm

LW 10 形 保護管：ID Ø 10 mm、OD Ø 12 mm

保護管	材質	取付ねじ	PN bar	T _{max} °C	L /60	L /120.../225	L /300.../600
364317 ...*	黄銅	R ½	16	200			
364303 ...*	ステンレス鋼	R ½	16	200			
364309 ...*	ステンレス鋼	G ½A	25	325			

... = 長さ L = 60, 120, 150, 225, 300, 450, 600 mm

LW 15 形 保護管：ID Ø 15 mm、OD Ø 16 mm

Ø 6.5 mm のセンサ; 2または3ヶ組合せ用、スプリング含む

保護管	材質	取付ねじ	PN bar	T _{max} °C	L /120.../225	L /300.../600
364244 ...*	黄銅	R ½	16	200		
364251 ...*	ステンレス鋼	R ½	16	200		
364258 ...*	ステンレス鋼	G ½A	25	325		

... = 長さ L = 120, 150, 225, 300, 450, 600 mm

材質

黄銅

Cu Zn 37

材質no. 2.0321 (DIN 17660)

ステンレス鋼

材質no. 1.4435 (DIN 17440)

ねじ仕様

R ½

ISO 7/1 管用テーパねじ (= JIS B 0203)

G ½A

ISO 228/1 管用平行ねじ (= JIS B 0202)

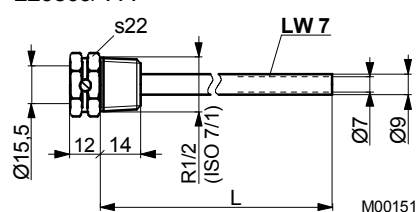
アクセサリ

(*: この部品番号で外形寸法図があります)

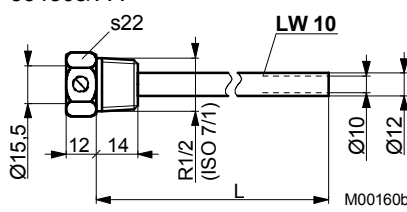
- 311835 000* ケーブル形検出器 EGT35 およびEGT45用張力緩和部品
- 312520 000* ケーブル形検出器およびキャブラリサーモ用共通張力緩和部品
- 313282 000* クランプリング d=15mm/7mm ステム取付時(使用時付属)
- 364140 000* 張力緩和用プッシング部品
- 364144 ... LW15用に検出器を挿入する時に使用するスプリング
- 364267 ... LW9-14用に検出器を挿入する時に使用するスプリング
- 364263 000* 相フランジ, G ½, 鋼材(材料no. 1.0110、DIN 17100; 銅シール使用)
- 364264 000* 相フランジ, G ½, SUS 鋼材(材料no. 1.4435, DIN 17440; 銅およびテフロンシール使用)
- 368855 000* Ø 9 mm ステム形検出器の保護管取付用ホルダ,

外形寸法図

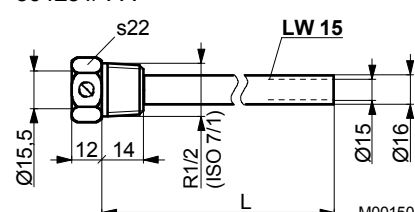
226807/ ...
226809/ ...



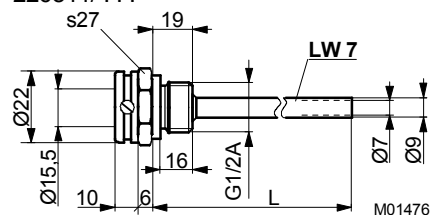
364317/ ...
364303/ ...



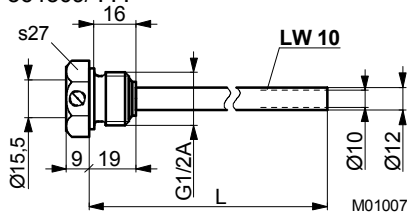
364244/ ...
364251/ ...



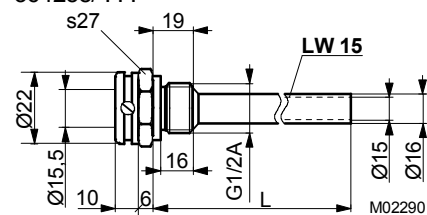
226811/ ...



364309/ ...

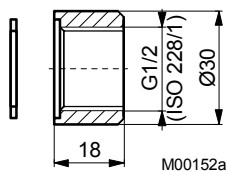


364258/ ...

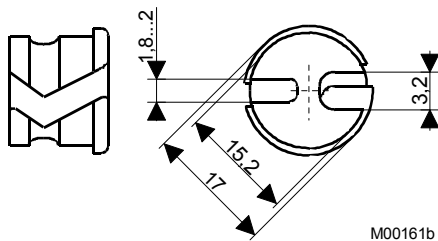


アクセサリ

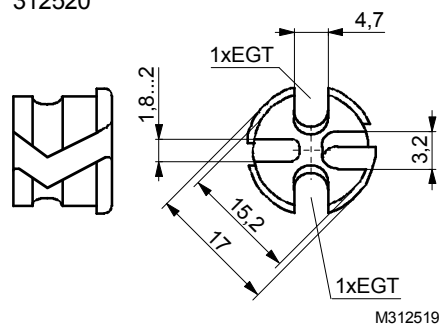
364263
364264



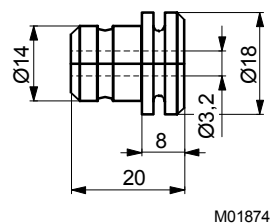
364140



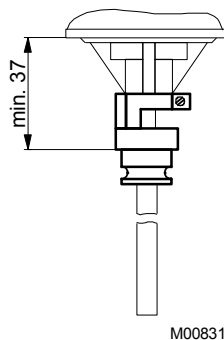
312520



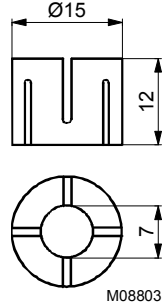
311835



368855

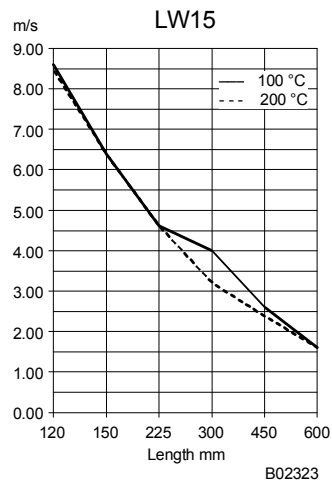
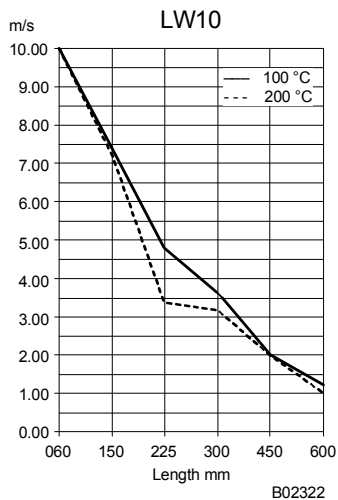
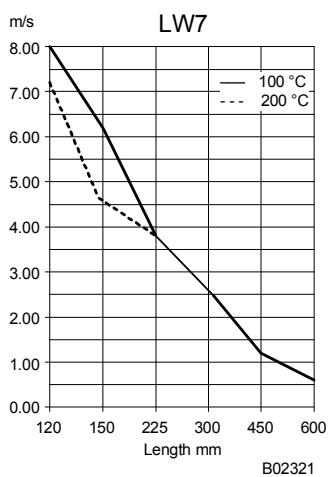


313282



技術データ

配管に垂直(流れに横断)に取付けた時の保護管に対する許容流速



水流は保護管を振動させます。上記の流速を僅かに(例えば0.2m/s程度)超えた場合でも、保護管の振動特性は劇的に変化させる時があり、材料疲労によって耐用年数を著しく減らします。